

# キウイフルーツかいよう病(Psa3系統)の発生について

キウイフルーツの重要病害であるキウイフルーツかいよう病（Psa3 系統）の発生が都内でも確認されています。

Psa3 系統は、従来の系統より病原性が強く、場合によって樹が枯死することもあります。発生園地ではすでに必要な対策をとっていますが、園地に病気を持ち込まないよう、細心の注意を払ってください（園地間での苗木や穂木の移動を控える等）。

## 1 病 徴

(1) 枝や新梢では、2月頃から症状が見られ、傷口等から白色で粘質の細菌液が浸出し、後に暗赤色に変色します。罹病枝は発芽しないか、発芽しても褐変部より上部が萎れ、枯死します（写真1）。



(2) 葉では、4月頃に褐色斑点で黄色いかさ（ハロー）を伴った病斑を形成しますが「Psa3系統」はハローが明瞭でない場合もあります（写真2）。病徴が著しい場合は落葉します。



(3) 花蕾ではがくや花弁の褐変がみられます（写真3）。



(4) 「Psa3系統」は緑色果実品種より赤色、黄色果実品種で被害が大きくなります。

(5) 菌の生育に好適な温度は15～20℃程度です。そのため夏期には症状が不明瞭になります。

## 2 伝染方法

雨や接ぎ木、せん定ハサミなどの作業器具により伝染します。

### 3 防除対策

- (1) 苗木、穂木および花粉は健全なものを使用するほか、園地間での穂木の移動は控えてください。
- (2) 風当たりが強い園では、防風ネット等による防風対策を行います。
- (3) ハサミ等の使用した器具はケミクロンG等で消毒します。
- (4) 切り口には、必ず癒合促進剤（トップジンMペースト）を塗布します。特に、主幹の切り口については、ラップやビニール袋で被覆します。
- (5) 薬剤防除（予防）は、表 1 に示す薬剤を用いて行います。
- (6) 感染が確認された場合、発病部位（葉、枝、幹）の切除を行い、切除した残さは焼却するか、地表に露出しないように埋却するなど適切に処分します。
- (7) 園地から出る際には靴底の消毒などの対策を行います。また、園地内に無用な者が立ち入らないようにしてください。

表1 キウイフルーツかいよう病に対して登録のある薬剤（平成28年5月11日現在）

	薬剤名	有効成分	使用方法	希釈倍数	使用時期	使用回数
休眠期以降	銅ストマイ水和剤	塩基性塩化銅・ストロマイツ	散布	600～800倍	休眠期～蕾出現前	4回以内
	アグリマイシン-100	グリホサイクソ・ストロマイツ	散布	1,000倍	落花期まで	3回以内
	カスミンボルドー 銅シン水和剤	カスマイツ・塩基性塩化銅	散布 散布	500倍 1,000倍	休眠期 発芽後叢生期（新梢長約10cm）まで	4回以内
収穫前	アグレプト水和剤	ストロマイツ	散布	1,000倍	収穫90日前まで	4回以内
	カスミン液剤	カスマイツ	散布	400倍	収穫90日前まで	4回以内
収穫以降			樹幹注入	200倍	収穫後～落葉前まで	1回
	アグレプト液剤	ストロマイツ	樹幹注入	1,000倍（200ppm）	収穫後から落葉前まで	1回
	ICボルドー66D	塩基性硫酸銅	散布	25～50倍	収穫後～発芽前	—
	コサイド3000	水酸化第二銅	散布	2,000倍	収穫後～果実肥大期	—

(注) 使用するには最新の登録内容を必ず確認してください。

### 4 疑わしい症状が見つかったら

最寄りの農業改良普及センター、または病害虫防除所へ連絡してください。  
結果が判明するまでは、ほ場外に植物体を持ち出さないでください。

### 5 その他

- (1) キウイフルーツかいよう病（Psa3系統）の情報については、農林水産省ホームページを参照してください。

[http://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/boujyo/140529\\_psa3.html](http://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/boujyo/140529_psa3.html)